

只木ゼミ前期第8問

甲は、勤めていた勤務先の上司 A に、甲自身の仕事上のミスについて叱責されたことを恨み、A に殺意を抱くに至った。そこで、甲は、自宅マンションに帰る A を追尾し、A 方マンションのエントランスにおいて、A に襲い掛かり、あらかじめ用意していた出刃包丁で A の腹部を 1 回突き刺した。しかし、甲は、A が腹部の激痛に耐えかね、「痛い、痛い」と言って泣きながら「許してくれ、助けてくれ」と哀願したので、大変なことをしてしまったと悔悟して、ハンカチで止血しながら、携帯電話で 119 番通報しようとした。しかし、そこに偶然、マンションの住人 B が通りかかり、A の出血を見て大声で悲鳴を上げたため、甲は驚き、119 番通報をやめ、思わずその場から逃走した。その後、B が 119 番通報をして、A は救助され、命を取り留めた。

甲の罪責を検討せよ。

参考判例:大阪高裁昭和 44 年 10 月 17 日判決